

# カンボジアの子ども達に学校体育の素晴らしさを届けるプロジェクト

代表者	佐藤幸司（教育B 4年）
構成員	入江航生（教育B 4年）内山翔太（教育B 4年）河村直彦（教育B 4年） 古埤咲奈（教育B 4年）本田祐一郎（教育M 1年） 黒田小真絵（農学B 4年）河村朋彦（教育B 3年） 三好一平（教育B 3年）丸山航平（教育B 3年） 高橋涼（教育B 3年）田宮陽平（教育B 3年） 河相直幸（教育B 3年）三上駿（教育B 3年） 加藤明幸（教育B 3年）橋本慎司（教育B 3年） 原田勝（教育B 2年）小宮山晋吾（教育B 2年） 笠原滋（教育B 2年）宗近亜美（教育B 2年） 山下優紀（教育B 2年）永田結己（教育B 2年） 坂本真衣（経済B 3年）南里真衣（経済B 2年）

## 1. プロジェクトの目的

本プロジェクトは、カンボジア・チョンカル群に於いて日本式の運動会を開催することでカンボジアの体育教育における体育授業の普及の先駆けになることを目的としている。また、日本の運動会のように保護者や地域の人々が観に来たり、出店が出たりといったようなことはなく、未だ「学校」というものが地域から疎外されているカンボジアの現状から「地域と学校のリンク」を狙った運動会の開催も一つの目標である。また、この運動会プロジェクト第I期からのつながりを持ち、現地教員の手だけで運動会が開催されることも目標とする。

## 2. プロジェクトの内容

今年度のプロジェクトの内容は、主に学生による学習会の開催、他大学、高等学校へ赴いて講義・寄付活動の実施、実際にカンボジアへ渡航しての視察調査である。以下にこれまで行った活動のスケジュールを示す。

表1 これまでに行った活動のスケジュール

年月	事項	年月	事項
2014年 4月	プロジェクト発足会、「前回経験者による本活動の紹介」学習会の開催	2014年 10月	「運動会を根付かせるためには何が必要？」学習会の開催
5月	「運動会とは？」学習会の開催	11月	Ⅲ期カンボジアへの1週間の渡航
6月	「カンボジア渡航について」学習会の開催	12月	Ⅲ期の活動の振り返りとⅣ期への課題、係りの引き継ぎ
7月	山口県内の高等学校へ赴き「山口大学の紹介・本プロジェクト活動の紹介」	2015年 1月	Ⅳ期運動会に向けた国内リハーサル
8月	「カンボジア視察調査」運動会開催予定校訪問・打ち合わせ	2月	渡航直前学習会
9月	「カンボジア視察調査報告」学習会の開催	3月	Ⅳ期カンボジアへの1週間の渡航

## 3. 活動内容

### 3-1 学習会

「第I期・Ⅱ期運動会」の反省と活動の紹介から始まり運動会の教育的価値、カンボジア渡航に向けての予備知識の習得、運動会開催にあたっての「運動会のスケジュール」、「渡航のスケジュール」を話し合う学習会の開催を行った。特に視察調査報告後からの学習会は11月下旬に開催する予定の運動会について具体的な活動が始まり、日本式の運動会を実施することで工夫された運動会スケジュールを考案した。

### 3-2 カンボジア視察調査

8月28日～9月5日までの1週間、実際にカンボジアへ渡航し視察調査を行った。調査内容は主に、開催を予定していた「チョンカル小学校」、「チョンカル中等学校・高等学校」への運動会開催の正式な許可を実際に校長先生と会って得ることと、今回新たに運動会を開催する予定の「PTTC 教員養成学校」、「パンティエイトマエ小学校」、また交流活動を行う「サムロン小学校」の運動場や校舎、校庭を正確に図化することであった。他にも以

前の渡航で、学校に保管をお願いしていた運動会で使用する用具の確認などを行った。また「フンセン中等学校」にて日本の体育の授業をさせていただくことを依頼し、了承を得た。

### 3-3 「運動会」を開催するためカンボジアへ渡航

2014年11月21日～30日の1週間、2015年3月5日～14日の1週間にカンボジアの小学校、中・高等学校で運動会を開催してきた。天候にも恵まれ無事開催することができた。どうやってカンボジアの学校に運動会を根付かせていくか、ということを考え運動会で使用した物品は全て現地のマーケットで調達した。この理由としてどんなに楽しく運動ができ、当日に現地教員自身で実際にやってみたとしても、運動会で使われている物が日本の製品であれば今後運動会を開催することはできないだろうと考えたからである。すなわちカンボジアの運動会にするためには現地の物で現地の人によって行われる運動会でなくてはならないと考えたためである。

運動会まで「現地視察、設営準備→リハーサル、お絵かき指導、清掃指導→運動会」といった3日間の流れを予定していた。今年度は、それぞれの学校に応じた目標を設定したが、特に「チョンカル小学校」では、現地教員にも運動会の運営を手伝ってもらった。その他の学校でも、リハーサルの時も現地の先生方に参加していただいた。この趣旨は指導方法や運動会当日の競技にスムーズにまた楽しめるようにする、といったものである。「お絵かき指導」は将来の夢や、身の回りの物を自由に子ども達に描くように指示をした。この際に用いたクレヨン、クーピー、用紙は寄付でいただいたものを使用した。Ⅲ期に「チョンカル小学校」で実施した音楽指導は、Ⅳ期において子ども達による鼓笛隊の運動会入場行進としてという形で結実し、素晴らしい演奏をみる事ができた。子ども達はどの活動に対しても意欲的に本当に楽しそうに取り組んでいた。その子ども達の純粋さ、というものは我々も驚くほどであった。運動会当日スケジュールもスムーズに進めることができ、子ども達、先生方、また地域の方々の満面の笑顔を見ることのできた1日になった。そして閉会式では、子ども達1人1人に参加賞として日本から持ち込んだ寄付物品(鉛筆、ノート、消しゴム etc.)を手渡して運動会は閉会した。1週間の渡航、慣れない地カンボジアでの生活で非常に疲れもスタッフ全員溜まっていたように思えたが子どもの笑顔を見て、運動会を運営し成功させた感動をスタッフ全員で感じる事ができた1週間であったと感じている。



図1 パンティエイトマエ小学校現地視察の様子



図2 運動会種目に取り組む子ども達の様子

## 4. 今後の課題

今年度はそれぞれの学校に応じた目標を設定してきたが、それぞれの学校で成功を収めることができたという良いと考える。「チョンカル小学校」では、現地教員のほとんどが運動会の運営に参加してくれ、プロジェクトの目標の一つでもある、現地教員による運動会というビジョンが鮮明に見えてきた。しかしそのためにはまだ、クメール語版指導書の完成、用具の簡略化などいくつかの課題が残る。今後はこれらの課題に力を加えていきたい。また「PTTC 教員養成学校」では、これから教員になる現地学生に運動会の運営に携わってもらい、「次は僕達だけで運動会をする」と力強い言葉を残してくれた。「PTTC 教員養成学校」の学生が先生となり故郷へ赴任してその学校で運動会をする、といったサイクルもできるのではないかと感じた。また交流活動を行った「サムロン小学校」でも、子どもの笑顔を見る事ができ、校長先生直々に「次はぜひうちで運動会をしてほしい」との言葉もいただいた。喜ばしいことではあるが、私達の目標は運動会を提供することだけではなく、体育の授業を根付かせることであり、その突破口として運動会を行っていることを忘れてはならない。そのためこれからいかにすれば、運動会が体育の普及の足掛かりとなるのかを考える必要があると感じた。